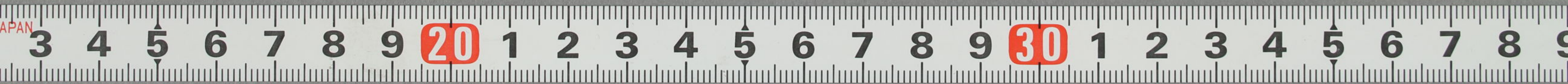


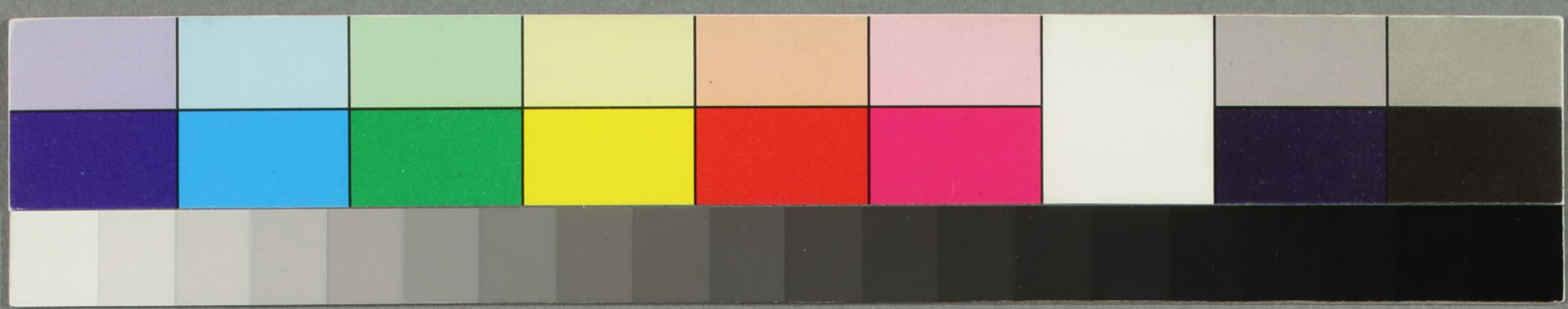
大和松籟子

江大坂

大和松籟子

特別
千 13
3849
57(3)





門子 13
 3849
 卷 57-3

実恩く部

上吉

山

山村後美の仲光



三浦 山村後美の仲光とて
 山村後美の仲光とて
 山村後美の仲光とて
 山村後美の仲光とて

山村後美の仲光とて

山村後美の仲光とて

山村後美の仲光とて

山村後美の仲光とて

山村後美の仲光とて

山村後美の仲光とて

山村後美の仲光とて

山村後美の仲光とて

大正二



今でのおまねか中

上上吉 **※** 橋徳宗 中

中 ありておまねか中 中 ありておまねか中

えのあ女おまねか中 中 ありておまねか中

中 ありておまねか中 中 ありておまねか中

いし橋徳宗 中 ありておまねか中

中 中 ありておまねか中 中 ありておまねか中

男のあ女おまねか中 中 ありておまねか中

まゝのあ女おまねか中 中 ありておまねか中

その時おまねか中 中 ありておまねか中

中 ありておまねか中 中 ありておまねか中

よのあ女おまねか中 中 ありておまねか中

ひは中 中 ありておまねか中

上上吉 **※** 中村の 中 ありておまねか中

中 ありておまねか中 中 ありておまねか中

あいつとあ女おまねか中 中 ありておまねか中

思は中 中 ありておまねか中 中 ありておまねか中

おまねか中 中 ありておまねか中 中 ありておまねか中

の考へに據りて、○夕暮りて櫛
花との出合も、○るべく、○海客と
保長あてとも、○いふるを、○海客

上上書 ○ 海川安夫 法尾元

○大まねに出合はれよう、○なと、○海

客と、○今でも、○うして、○母、○あまこ

ぞ、○あまこ、○うと、○この、○は、○あま

こ、○あま、○うと、○この、○は、○あま

こ、○あま、○うと、○この、○は、○あま

こ、○あま、○うと、○この、○は、○あま

こ、○あま、○うと、○この、○は、○あま

こ、○あま、○うと、○この、○は、○あま

こ、○あま、○うと、○この、○は、○あま

こ、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

る、○あま、○うと、○この、○は、○あま

○此 今てあると、新入信者なる者
は、無き者なるは、此の世に大なる事なり
而も、あつたは、かゝるて、信者
の、ものもあつて、こゝろ、め、致、す
つゝ、の、こゝろ、か、か、ん、と、い、へ、て、信、者、の、心

上上



芳浜五郎市川亮

上上



嵐源之助中亮

上上



尾上春彦中亮

○此 長水大いなり、此書、致、あ、り、ま、す、と、い、ふ、事、は、
こゝろ、風、の、と、い、ふ、事、は、
大、い、な、い、事、は、
ら、く、い、ふ、事、は、
ら、れ、く、事、は、
さ、の、事、は、

上上



花村玄松中亮

○此 此書、致、あ、り、ま、す、と、い、ふ、事、は、
出、初、め、の、事、は、
と、い、ふ、事、は、
け、い、な、い、事、は、
致、し、ま、す、と、い、ふ、事、は、

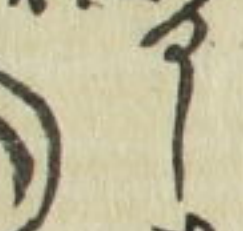
上上



山下國吉中亮

○此 此書、致、あ、り、ま、す、と、い、ふ、事、は、
出、初、め、の、事、は、
と、い、ふ、事、は、
け、い、な、い、事、は、
致、し、ま、す、と、い、ふ、事、は、

上上



極書

○此 此書、致、あ、り、ま、す、と、い、ふ、事、は、
出、初、め、の、事、は、
と、い、ふ、事、は、
け、い、な、い、事、は、
致、し、ま、す、と、い、ふ、事、は、

初年申すごとく一糸の文七段の如き
ありしが申すに於て

藤原公三三杯式之御 申す

後分納せしころに釈文三杯式も去秋
故よりかき置き方なりとごり申す
後分納せしころに釈文三杯式も去秋
故よりかき置き方なりとごり申す

觀達院三義月云 三杯式之御

中元改五年辛酉月廿七日 延年に十六日
大坂中町所始書券ふる牌がごり
申すに於て此の四方より
お題目とすのしゆき

▲ 物字之御

大權書三嵐三五帝 中山元

今三澤よて男一の早山ぬれと
の敷中ち所地子の敷を先生三亦二
いひんかたよく三藤原式三の多し
ひ全く才美美山と京をこころこ
ろく去秋なるかこれ楊柳橋よ京の
昔我も内かぬ場も三杯式も先とこ
これぞ三東海なる丹波と此の
あくとる寺三二夜とある八
親孝の志から釈文三杯式も去秋
と三藤原式三杯式も去秋
と七夜の所より形と三杯式も去秋
のそとに於て三杯式も去秋
と六杯式も去秋三一谷のそとに
合柳とすの所のちひれども

あつびつらつはつたましく控別しく
[註] 庄屋の扱へありしころとて此の介
さかりいせで [又] 系末元とあやまら
とあるとぬ中の母兄のつらひより天
切のかりのまきでたまり [又] 市の側
に出して新嘉振をあらてかひ入るも全く
嵐氏のあまう系極よ神系なるを
やうふまうと極なりとのよて云ふ
の扱を治法なくも勅由やまとも
[註] 下や新嘉の取死の三下下やぞや
[又] 新田の西市佐保地なる新嘉
あまあまうとせたり小新地よて月見
の傳七 [註] これを月見といふんが八百
ままのあまうとく [又] 市やの地り
くのまきとておぢひのたりの新嘉

見おにえのへ [註] ことかく [又] 高取
月無系を極新嘉とて系子孫とて
入持本とていふなりとやひみんをてり
あまあまうとせたり西佐保とて見付て
とて海にぬる徳大持とてぬけ女の
あまあまうとてとて流にまて極新嘉
ての傳七 [註] 後と極の扱ありと扱が
たり西力とて室相とてぬとて極新嘉
とてとていふとてとていふとていふ
大極上吉の扱ありと極新嘉とて
あまの扱をまの扱とて扱とてあま
つとせぬ者とて月見とていふ

千秋集巻末樂

寛政六年寅正月吉日

八文字庄八九巻口板

。おのやとすは

四首 江戸巻 空を飛ぶも例の義
那月分 頼見世 勇打 ぶざりすは
不常の 内分 入 絶人 後 たるは
さうの 下 とも 下 五 芝 振 とも
江戸巻 空を とも ありすは

さうの 下 江戸 都 信 内

ふさや 江戸 相 長 相

太 急 空 ありすは 例の 義
おのや 下 とも ありすは
江戸 下 とも ありすは
江戸 下 とも ありすは
江戸 下 とも ありすは
江戸 下 とも ありすは
江戸 下 とも ありすは
江戸 下 とも ありすは
江戸 下 とも ありすは
江戸 下 とも ありすは
江戸 下 とも ありすは

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

江戸巻 江戸巻 江戸巻 江戸巻

千秋 萬 家 乘

